

第1章

県民交流広場の取組事例

～ 地域コミュニティ・アワード出展地区の取組 ～

地域づくりの
課題と目標

東灘小学校区には、以前から公共施設が少なく、「老人憩いの家」が設置されていたのみでしたが、平成9年に現在の本庄地域福祉センターとなりました。

それまでは、高齢者しか使用されない施設であったため、一般の方が使いにくくされていましたが、平成15年より、子どもを対象としたセンター主催の活動を取り入れることによって、一般住民の活動も活発化して、広く利用されるようになりました。

また、施設外の活動も増え、小学校や地域の公園等も利用し、メモリアルコンサート・子ども遊びや、高齢者のグラウンドゴルフ、子ども華道教室・茶道教室、男の料理教室などを継続し、センター主催の活動を盛り上げさせて、子どもと大人の交流が広く多彩に出来ることを目標にしています。

華道・茶道教室

子どもを対象とした活動として、華道教室と茶道教室を募集したところ、大変多くの子どもたちの参加を得る事ができ、地域のニーズにあった企画であり、募集人数を広げて実施できました。

地域の子どもたちに日本の伝統文化を体験させ四季の草花を通して、情緒豊かな心を育むことができれば、近い将来大人になったとき、自分の生活にゆとりを持ち、心豊かな家庭を持てるきっかけづくりができることを望み実施しています。

また、遊びも同じで、子ども時代に友達と一緒に遊ぶことが人間関係を構築し、社会参加に結びつけられるきっかけを地域の大人が手伝えることで、高齢者と子どもの絆が養われていくことを期待するものです。



【茶道教室】

男の料理教室

「男の料理教室」についても、世界で和食が見直されたのと同じで、日本の食文化を次代の子どもたちに繋げるのは、大人の役割です。

ただ、自分ができないことを教えることはできないので、まずは、自分が料理を作り、試食して初めて人に言えることであり、体験が必要です。

そのための第一関門として、自分が体験することから発言権を得るための体験学習となることを期待して実施しています。



【男の料理教室】

これまでの
成果や
今後の予定

子どもを対象とした華道教室・茶道教室については、今後も自主財源を活用して、できる限り長期計画で実施します。

また、男の料理教室についても、自主財源及び参加費を増額しても、料理の専門家を招き、栄養面や季節料理を中心に、体験学習と共に楽しく料理のできるコツを学んでいけたら良いと企画を組んでいます。

拠点施設



市立本庄地域福祉センター

《主な整備内容：改修》

- 調理コーナーの拡張・給湯設備等の機能改善
- 活動コーナーの収納スペース増設
- 男子トイレの洋式化

連絡先

本庄ふれあいのまちづくり協議会
TEL / FAX 078-412-8470

地域づくりの
課題と目標

菅の台地区は須磨区の北西部に位置し、1975年に入居が始まったニュータウンです。意欲的なまちづくりが進められ、町内毎の盆踊りや祭りなどの地域活動が始まり活動団体も作られました。現在でも継続されているものも少なくありません。

しかし、38年を経過した今、住民の高齢化率が高くなり、諸活動の次世代への継承と世代間の交流が新たな課題となってきました。

そこで、「ふるさとづくり」を合言葉に地域住民の世代間交流と安心感のあるまちづくりを目標に諸活動を進めています。

ふれあい菜園活動



【ふれあい菜園】

地域福祉センターの敷地内に10坪程度の畑をこしらえ、声を掛け合って有志のグループで四季の野菜を育てています。

地域から農園を借りている人も多く、その人たちに栽培計画や世話の方法などを教えてもらい、児童館の子どもたちも交えて、苗植えから収穫までの作業を行っています。

そして、収穫された作物は、給食サービスや親子クッキングに使用し、食を通じての交流の機会としています。

子どもたちの食事会で食べるカレーライスには、自分たちで収穫したジャガイモが入っているだけに味は最高のようです。

FAST活動

「一家に一人の市民救命士」を目標に、市民救命士のインストラクター資格を取った地域住民が、消防局の認可をもらってFASTチームを作り、「市民救命士」の講習会を開いています。

県民交流広場事業で整備された訓練人形を使用し、「心肺蘇生法」や「AED」の使用法、相互協力の大切さなどを学ぶ内容としています。講習を受ける側も地域の人ということで最初から細かな疑問にも答えながら納得のいく講習が行われています。

また、地域内の小中学校や高等学校の児童生徒の救命学習に関わる等活動が広がってきています。



【「市民救命士」講習会】

これまでの
成果や
今後の予定

施設関係の整備がなされたことにより、利便性が高まりました。従前の「給食サービス」や「ふれあい喫茶」「クラブ活動」以外に「ふれあい菜園活動」や「市民救命士養成講座」と住民交流の場と機会が広がってきています。

また、それぞれの活動への参加者数も増加しています。

これからもサービスを受ける側とする側の固定化を避け、団塊世代の参加も含め気安く足の向く活動づくりを図ってまいります。

拠点施設



市立菅の台地域福祉センター

《主な整備内容：改修》

- 和室を洋室使用に改修し、活動コーナーを拡張
- 菜園の整備
- 女子トイレの洋式化

連絡先

菅の台ふれあいのまちづくり協議会

TEL / FAX 078-791-0855

地域づくりの 課題と目標

私たちの町は、平安朝以前から、武庫川河口の砂州を徐々に埋め立て開発された町で、その歴史は古いですが、農業から工業へ、また宅地化へと変遷があり、最近はその宅地が高層化され、新しく若い住民層が増加して、一見活性が高いように見えます。しかし、その活動は、スポーツ等一部分野に限定される傾向があり、地域全体（高齢者 24%）での、“幼子育成老年”及び“既新住民”の緊密な交流がこれからの町を支える原点と考えています。その目標にむけて、いかに活動出来るかが課題です。

そうめん流し



【そうめん流し】

夏休みの最終日曜日にそうめん流し大会をしています。

地域の交流の第一歩は、年齢を問わず、とにかく人が集まってワイワイ楽しむことから始まると思っています。

7月の竹伐りから始まって、当日は高いレーン、低いレーン合わせて4連、約55mにそうめんを流し、幼年～高齢者までが、入り混じってそうめんを食べるという共通作業をすることで、年齢を超えた交流が生まれています。

子どもに誘われた若い親の層が多数参加してくれるため、彼らが次の一歩を踏み出してくれることを期待しています。

いま何が！タイムリーに講演会、映画会等

自治会を中心とした交流広場なので、地域の全体が興味を持つ話題をタイムリーに取り上げて講演会、映画会等行っています。

この地域は0m地帯で、津波には敏感で、県市の情報に合わせた防災士による「講演会」は満席、また、食に関する安全を取りあげた「映画会」では講師の話にあちこちで会話が始まりました。

顔をあわせて、話す、笑う、考える事で生まれる一種の連帯感を、次回道で会った時には、挨拶になり、会話になると考え、いま何が！をキーワードに講演、講習、上演等行っています。



【防災講座】

これまでの 成果や 今後の予定

活動拠点である上田公会堂を改修、廊下の壁一面を本棚にして地域から集まった本を約3千冊収納しました。子どもたちの恰好の遊び場になり、イベント時の写真等展示すると非常に喜んでくれ、それを話題に公会堂に集まる大人たちと交流する機会がかなり増えたと感じています。

新しく、手作り作品の展覧会なども始めました。

今後は、企画し発信されたイベントに参加するだけでなく、家庭での思い、体験したものを持ち寄るなど、個々からの発信を形にするような交流事業も進めていきたいと思っています。

拠点施設



上田公会堂

《主な整備内容：増築》

- 活動拠点となる上田公会堂の改補修
- 行事器材等の収納庫増設や廊下壁面本棚の新設、舞台の整備等
- 備品の整備（OA機器の充実、視聴覚機器、長机など）

連絡先

鳴尾東コミュニティ協議会
TEL / FAX 0798-48-0750

地域づくりの
課題と目標

浜風地区集会所は浜風小学校区コミュニティーの主要な交流の場となっています。幅広い世代の住民が集い、会話がはずみ、笑顔がみえるイベント開催を目標に、県民交流広場事業の活動を「すまいる浜風」と名付け、企画運営を行ってきました。この6年間で、新たな活動がいくつも生まれ、地域のみなさんの交流の場となっています。

助成補助期間が終了したこれからも、可能な限り質を落とさず、活動を継続していくことが課題です。

四季折々のイベントを開催

定期的な活動に加え、季節ごとに地域住民が楽しめるイベントを企画しています。

例えば、夏休みには「ちびっ子集まれ！夏休み特集」と題し、粘土教室やオセロ大会、カブトムシ飼育発表会などを開催して子どもたちの人気を集めています。特に人気の事業は、シリーズ化して毎年開催しているものもあります。

冬には、クリスマスランチの料理教室とクリスマスリースづくり教室を同時に開催するなど、盛りだくさんの内容で四季を感じながら交流しています。



【子ども粘土教室】

読みたくなる、参加したくなる広報物の作成

楽しいイベントの企画、運営の工夫はもちろんですが、まずは「参加してみたい！」と思ってもらえるようなイベントチラシ、広報誌の作成にも力を注いでいます。

3ヵ月ごとに発行する「すまいる浜風ニュース」では、活動の様子をイメージしやすいよう、写真や絵の挿入、デザインにもこだわり、視覚的にも楽しめるものにしていきます。また、前号で広報したイベントの開催結果を報告するなど、年間を通じて繋がりのある広報活動を展開しています。



【広報誌・チラシ】

これまでの
成果や
今後の予定

浜風地区集会所に集まる人々は年々増え、収入も増加しています。県民交流広場事業の企画で誕生した「男性の健康体操」は全員が参加すると部屋に入りきれないほどの人気です。今年度は「女性の健康体操」を発足する予定です。広い年代層に人気がある事業は「みんなで唄おう」や「歌声喫茶」で、リピーターも多いです。途中にはさむコーヒープレイクの時間は参加者同士の会話もはずみ、さらに交流が深まっています。

整備した印刷機・コピー機は各種団体で重宝されており、利用料金を積み立てていますが、今後のメンテナンス費用捻出には課題が残ります。

拠点施設



浜風地区集会所

《主な整備内容：改修》

- 和室を洋室に改装(3室) 県民交流広場の部屋には炊事場増設
- 庭の花壇の整備
- 備品の整備(机椅子 カラオケ プロジェクター テレビなど)

連絡先

浜風地区集会所運営協議会
TEL / FAX 0797-38-0960

地域づくりの 課題と目標

地域の高齢化に対する災害時の要援護者支援、防犯、子育て支援、子どもたちの基礎学力の向上と教育環境の改善、地域住民のマナーの向上など課題は多くあります。宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会は、地域内の関係団体と連携・協調し、地域住民の親睦を図り、(1)健康で心がふれあい、心豊かに安心して暮らせるまち(2)安全で快適な街並みや景観の美しいまちを目標に、上記の課題を解決すべく、各種事業・活動に取り組んでいます。



【サロン交流会】

サロン交流会

地域の高齢化が進む中、高齢者の引きこもりや孤独感をなくし、心身の健康を増進するため、地区内で6つのふれあい喫茶「サロン」が開かれています。6つのふれあい喫茶を運営するボランティア、スタッフとそこに参加する人たちが一堂に会し、より広い地域との住民の親睦を図るために、「サロン交流会」をコミュニティルームの多目的ホールで開催しています。サロン交流会には、毎回、予想を超える多くの人たちが参加し、落語、講演、楽器演奏、歌や会話等を楽しみ、人の輪を広げています。

基礎学力習得支援事業「寺子屋 すえなり」

将来、この地域をリードしてくれる子どもたちの健全育成には、地域が彼らの基礎学力習得を支援し、彼らの将来の可能性を広げてやる必要があると考え、平成24年9月から末成小学校内のコミュニティルームで「寺子屋 すえなり」を開校しました。寺子屋は、原則、休校日を除き、毎週月曜日の午後2時30分から4時に開校しています。講師は、この事業の趣旨に賛同して下さった地域のボランティアの方たちです。寺子屋により、地域の大人と子どもたちの間に絆が強まり、子どもの見守りにも繋がっています。



【寺子屋】

これまでの 成果や 今後の予定

広場事業で改修した地域の活動拠点、小学校内のコミュニティルームは、地域住民の交流の場となり、多くのグループにより、踊り、カラオケ、健康体操、楽器演奏など趣味の充実や健康増進のために利用されています。また、まちづくり協議会や自治会、ボランティア団体により、子育てサロン、ふれあい喫茶、食事会、なんでも相談、各種学習会の場として利用されています。

今後、より多くの方がこのコミュニティルームを活用されるように工夫するとともに、住民交流の機会を増やすイベントを開催します。

拠点施設



末成小学校コミュニティルーム

《主な整備内容：増築》

- コミュニティルームの内外部の改修（フローリング、パーティションの設置）
- 集会室の事務室等への改修（会議・事務室と倉庫の設置）
- 備品の整備（印刷機、パソコン、机、椅子など）

連絡先

末成小学校地域まちづくり協議会
TEL / FAX 0797-71-4768

地域づくりの
課題と目標

当地域は不動産バブル期に都市計画区域外であった事から、ミニ団地開発が行われて人口が急増し、引っ越して来た「新住民」と従来の「旧住民」という見えない壁があり、交流があまり活発ではありませんでした。

バブル崩壊後に都市計画区域に編入されたこともあり、人口の増加は見込めませんので、この地域に暮らす全ての住民に「ふるさと」意識を持ってもらい、全ての住民同士の交流を進めて地域の活性化に取り組む事が必要でした。



【ふれあいビアガーデン】

「ふれあいビアガーデン」

夏の夕暮れのひと時、地域の方々（子どもも含めて）の交流の場として、平成23年度から行っています。子どもたちはDVDを見たり、花火をしたりしています。

近所の人たちや久しぶりに出会った人とのふれあいの場となり、元気な地域づくりに役立っています。

飲酒運転をしないで、子どもたちとほろ酔い気分で歩いて自宅に向かう姿は微笑ましいものがあります。

「ふれあい居酒屋」

初冬の夕方から、家族そろっての夕食も兼ねた企画で、帰りのタクシー一代などの心配をせずにゆっくり過ごせる機会になっています。残念ながらスペースの関係から、あちこち移動しての話し合いは制約がある中でも、参加者が大声で話し合っている様子を見ると、スタッフの疲れも癒やされます。

薪ストーブを利用しての蒸し物もあり、暖房に調理にと大活躍の薪ストーブですが、これからは、「薪ストーブ愛好家」を中心にして、薪を確保する活動を新たに考えたいと思っています。



【ふれあい居酒屋】

これまでの
成果や
今後の予定

「ふるさと意識の醸成」と「元気な地域づくり」をテーマに活動し、活動拠点の「乙原公民館」の利用が促進され、多世代間の交流も進んだと自負していますが、今後は自立した活動にするためにも、参加者からの適正な負担を求めることで、これまでの活動を継続したいと考えています。

又、高齢化が一層進む中で、高齢の方々やウォーキングをしている人が立ち寄りたと思ってもらえる活動の取り組みが進められればと思っています。

拠点施設



乙原公民館

《主な整備内容：増築》

- ピロティを活用し「ぶらっと・ぎやらりー」増築
- 1階和室と厨房を集会室に改修
- 備品の購入（コピー機、モニターテレビ、薪ストーブなど）

連絡先

小野小学校区ふるさとづくり協議会
TEL / FAX 079-566-0001

地域づくりの
課題と目標

人丸地区は、明石市の東部の台地に位置し、明石海峡大橋や淡路島を望める閑静な住宅地域です。しかしながら、この地区にも高齢化の波は着実に押し寄せています。地域住民の交流と連携の推進が求められる中、人丸まちづくり推進会では、小学生から高齢者まで幅広くアンケート調査を行い、地域の声に耳を傾けながら、「みんなでつくり・みんなで支え合う・オープンな地域づくり」を取組指針として、12事業に取り組んでいます。



【人丸マスコットキャラクター
「まろちゃん」】

(1) まちおこし「まろちゃん」を活用した様々な活動

地元のマスコットキャラクター「まろちゃん」を製作。キャラクターデザインは地元高校生によるものです。さらに、平成25年には「まろちゃんソング」を公募し、地元教師による作曲を経て、地元学生による演奏や地元幼稚園による「まろちゃんソング」の振り付けも完成するなど、「まろちゃん」を活用し、活動の幅を広げながら、人丸地区を盛り上げています。

(2) 健康講座からレクリエーションまで「さんサン講座」

第三(さん)日曜日(サンデー)に開催する講座です。講座内容は、認知症予防や薬の使い方などの健康講座や、みんなで楽しめるウクレレやマジックなどのレクリエーション講座まで、硬軟織り交ぜた内容が好評です。



【さんサン講座】



【子育て広場】

(3) 子育て広場「まみぷち♪」

0歳児から幼稚園児までの子どもとその保護者が、絵本を読み聞かせたり、おもちゃなどで一緒に遊びます。さらに、専門家を招いたおしゃべり会や情報交換を通して、親同士の交流を深め、リラックス、リフレッシュできる場所づくりをめざしています。

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業を始めて3年。活動分野ごとに実行委員会を組織して取り組んできましたが、分野ごとの活動が深まるとともに、委員会間の情報共有を通じて、地域での横の連携がさらに密になってきたと感じています。

県民交流広場としては、平成26年度から拠点であるコミュニティーセンターの耐震化工事に伴う改築工事を控えており、これを機に地域の声を広くくみ上げながら、交流拠点を創りあげ、いっそう地域交流を深めていきたいと考えています。

拠点施設



人丸小学校区コミュニティーセンター

《その他の主な活動内容》

○地域の歴史や景観を見つめ直しながら歩く「まちかどタウンウォッチング」や、地域で清掃を行う「さわやか通りの日」、景観を美しくする「花の街角コンクール」等を展開

連絡先

人丸まちづくり推進会
TEL / FAX 078-913-9915

地域づくりの 課題と目標

米田地区は、加古川市の西部に位置し、市内でも高齢化率や少子化率が比較的高い地域です。このような人口構成の中で、住民間の意思疎通が薄まり、連帯意識やふるさとへの愛着が弱まりつつある社会状況を懸念しています。

地域の12団体で組織する米田会館運営協議会では、地域の老若男女が住んでよかったと感じ、ふるさとを愛するまちづくり、信頼し・連携しあえる関係づくりをめざして、一丸となり取り組んでいます。

(1) 安全安心のまちづくりを推進する防犯活動

米田地区では、各種団体から142名が防犯活動に参加し、昼間班、夜間班とうまく分担しながら、年間約175日以上にわたり活動を実施しています。

さらに、県民交流広場事業を活用した青色回転灯付広報車の導入により、防犯活動がさらに広がり、住民の防犯意識や犯罪抑止力が高まってきたと感じます。活動中での小学生からの気持ちよい挨拶や住民からの感謝の言葉を受け、やりがいも感じています。



【防犯活動】

(2) 高齢者・成人・青少年の三世代交流グラウンドゴルフ

高齢者、成人、青少年の三世代6名でチームを編制し、グラウンドゴルフの対抗試合を行います。

昼食時には青空のもと、持ち寄ったお弁当を一緒に食べながら、会話を楽しまします。戦後の生活の様子を語る高齢者、社会の善し悪しを話す成人たち、子どもは大人の話聞いて、現代の子どもの生活や、初参加のグラウンドゴルフについて話します。世代間交流を楽しむ大切な機会になっています。



【グラウンドゴルフ大会】

これまでの 成果や 今後の予定

米田地区は“安全安心なまちづくり”と“交流”を大切にしています。防犯活動、グラウンドゴルフ、福祉文化祭など、多様な活動を通して、地域住民に交流を呼びかけています。中でも防犯活動は、市内でも最大規模の活動となり、地域への浸透・広がりを感じています。

これからも、より多くの住民に積極的な交流を呼びかけ、その交流からコミュニケーションを重ね、互いに理解しあい、信頼できる関係づくりに繋げ、地域の連帯感を高めていきます。

拠点施設



加古川市米田会館

《主な整備内容：増築》

- 防犯活動の詰所として小会議室を増築
- 備品の整備（広報車、音響整備など）

連絡先

米田会館運営協議会

TEL / FAX 079-432-3488

地域づくりの 課題と目標

重春小学校区には、重春地区と野村地区の2つの自治区があり、その組織体として異なる体質を持っています。そのため両地区の住民交流を課題としています。現在西脇市の図書館・子育てセンターと地区コミセンを有する複合施設が建設中であり、その完成時には「地区コミセン」を中心とした共働事業が実施できる事を目標にしております。



【交流盆おどり大会】

交流盆おどり大会

校区内の全住民の交流と親睦を一つの事業を共働できる機会づくりとしての“盆おどり大会”を実施しております。25年度から校区内の「しばざくら通り商店会」との共催により、広範囲な住民交流を行いました。今後もこの方法で行う事にしております。

歴史探訪

重春地区は歴史や伝統文化の豊かな地区です。

まず地区の歴史を知る事から始まった歴史探訪も、関心の高まりと共に市内他地区の探訪を行い、年1回の行事となって、歴史や文化に対する認識も高まり好評です。

25年度は大河ドラマ「軍師官兵衛」の関連地区を訪れました。



【歴史探訪】

これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場事業の推進により、両地区の住民交流が進み各種講演会の実施や行事が行えるようになって来ました。

特に「男の料理教室」は月一回実施しており好評です。

今後も同様な事業を推進していく予定です。

(25年度アワードに参加)

拠点施設



重春・野村地区交流広場館

《主な整備内容：改築》

- 多目的な利用が出来る多目的共働室と会議室を設備
- 交流事業を行う為の各種設備の確充

連絡先

重春・野村地区交流推進委員会

TEL 0795-38-8061 FAX 0795-38-8062

地域づくりの
課題と目標

大部地区は、小野市街地の北に位置する田園と緑豊かな自然環境に恵まれた地域です。現在、地区内における65歳以上の高齢化率が約23.59%と高くなっていることや、核家族化が進んでいることから、家族間、住民間の触れ合いが希薄になっています。そこで、私たち大部地区地域づくり協議会は、子どもたちが、家族をはじめ地域住民とのふれあいを通して、自分を大切にすることや他者を思いやる気持ちを育み、地域の大人全員で子どもたちを見守る仕組みづくりに取り組んでいます。



大部地区最大の夏祭り おおべのショー

このイベントは、国史跡広渡廃寺跡歴史公園で開催される、大部地区最大の夏祭りです。その昔、東大寺領荘園であった大部地区は、大部の荘(おおべのしょう)と言われており「荘」と「ショー」を、かけた言葉遊びからイベント名が決定しました。内容は、大部地区内の保育園児や小学生、中学生などの舞台(ショー)をはじめ各町からの出店が、会場を盛り上げてくれます。まさに、子どもから大人までがふれあい、五感を大いに刺激してくれるイベントです。

【第7回おおべのショー】

子どもたちの見守り活動 安全・安心パトロール

小野市内で開催される大きなイベント(小野まつり・産業フェスティバル)を、子どもたちが安全・安心して楽しめるよう、地域づくり協議会委員で見守りパトロールを行っています。



【安全・安心パトロール】

これまでの
成果や
今後の予定

平成18年度から継続して開催している、「おおべのショー」を中心に、家族間、地域住民間のふれあいの場づくりや、子どもたちが安全・安心して生活できるような環境づくりに取り組んでいます。どの事業も、回を重ねるごとに参加者が増加し、地域のイベントとして定着してきました。

これからは、さらに交流の場としての役目が果たせるよう、事業内容の充実を図っていきたいと思っています。

拠点施設



コミセンおおべ

《主な整備内容：改築》

- 調理室、駐車場改修工事
- 調理備品、パソコン、印刷機、いす・テーブル等備品購入
- イベント事業
- パソコン教室

連絡先

大部地区地域づくり協議会

TEL 0794-63-6100 FAX 0794-63-6101

地域づくりの 課題と目標

御国野地域は歴史あふれる地域であり、多くの歴史的遺産があります。しかし、元々農村地帯なので高齢化により農業者が少なくなり、最近では開発が進み新興住宅が建ち、どんどん新しい住民が増えてきました。そのため新旧住民の融合が大きな課題となっています。また、世代間の断絶もあり三世代交流を進めていかなければなりません。そこで、「歴史ウォーク」「グラウンドゴルフ大会」「吹矢大会」「清掃活動」、さらに各单位自治会に於ける伝統行事の「盆踊り」「秋祭り」「トンド焼き」等により多くの人が集り交流できるよう多彩なイベントを企画しています。今、官兵衛ブームにより御国野地域は盛り上がっていますが、これは一過性のものであり、今後は地道な活動により2つの課題を解決していくよう努力します。

歴史ウォーク



【歴史ウォーク】

御国野地域の地域資産である各史跡をめぐる「歴史ウォーク」を進めてきました。これにより住民が自分の住んでいる地域をよく理解します。また、新旧住民、三世代が仲良く史跡めぐりをするにより、子や孫がおじいさんやおばあさんと話す機会が増えてお年寄りを理解し、また、おじいさんやおばあさんも子や孫との対話により子や孫を理解し、和気あいあい関係を築くことでやさしい地域社会ができるよう活動を進めてきました。

グラウンドゴルフ大会

御国野地域はお年寄りのスポーツも盛んです。

特にグラウンドゴルフに関しては各单位自治会でもチームを作り余暇を楽しんでいます。また、三世代、新旧住民も参加できる大会を開催しています。これにより地域の課題である「三世代交流」「新旧住民の交流」が実現しつつあります。さらに「吹矢大会」等も開催し、今後できるだけ多くの住民が参加し、交流ができる場づくりに努めます。



【グラウンドゴルフ大会】

これまでの 成果や 今後の予定

「歴史ウォーク」「グラウンドゴルフ大会」「吹矢大会」をはじめ、歴史的遺産の「清掃美化活動」等により三世代交流、新旧住民の融合の成果があがりつつあります。

26年度は、「軍師官兵衛」によるまちおこしを進めながらも、「三世代交流」「新旧住民の融合」等をめざして頑張っていきます。

拠点施設



御国野公民館

《主な整備内容：増築》

- 御国野公民館の改修
- 備品の整備

連絡先

御国野地域推進委員会
TEL / FAX 079-252-4420

てらまえ

地域づくりの
課題と目標

私たちの課題は、町全体にいえることですが、急激な少子高齢化、核家族化等に伴う地区住民の関係の希薄化等により、地域コミュニティの維持が徐々に困難になってきていることです。特に地域伝統行事の担い手不足、参加者の減少等は顕著で、地域の大きな課題となっています。これらの課題を踏まえ、私たちは、地域の高齢者と交流を深めるために「ふれあい喫茶」を実施し、伝統行事、祭り等において、子ども、若者に参加いただける取組を続け、地域の活性化につなげたいと考えます。

水車祭り



【イベント会場】

新野地域の文化財として長い歴史がある水車の稼働時期（水田が耕作される5月から）に合わせて、水車祭りをJR播但線新野駅前の新野水車の郷周辺において実施しています。この祭りは、水田の揚水に利用する水車約10基の見学やウォークラリーを中心に、イベント会場では、水車の会、各種地域団体等による屋台やステージの催しが展開され、子どもからお年寄りまで多くの方に参加していただいています。秋には同じ会場で、収穫祭も実施していますが、今後も継続して祭りを実施し、地域団体、世代間の交流を広げ、地域の活性化につなげていきたいと考えます。

ひょうたんクラブ（ひょうたん栽培、加工、教室等の開催）

ひょうたんクラブは、ひょうたんから駒が出ることを願って、「地域の活性化・多世代間の交流・日本の元気発信」を目標に活動しています。ひょうたんの栽培から加工までの一連の作業の中で、携わる方の交流を深め、より多くの方にひょうたんの普及と配布を行っています。栽培の段階においては、種の植え付け、肥培管理、収穫を行い、加工段階では、水漬け、灰汁抜き、乾燥、総角結びを行います。加工の段階において、ひょうたん造り（ひょうたん人形造り）教室を開催し、夏休みの子どもの工作課題の一翼を担っています。



【ひょうたんの冊子】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場の交流が定着し、月1回「ふれあい喫茶」の開催、地域伝統行事の祭りの継承、水車祭り等のイベントの開催、ひょうたんクラブによる加工教室の開催、縁起物として「ひょうたん」の全戸配布が実現できています。少しずつですが、子どもからお年寄りまでが地域に出て行けるような環境作りができてきています。今後も、少子高齢化、核家族化等による地域のコミュニティの崩壊を少しでも食い止めるとともに、地域の活性化につなげていけるように、財源の確保を課題としながら、継続したイベントの開催等を行いたいと考えます。

拠点施設



神河町中央公民館

《主な整備内容》

- 駐車場のアスファルト舗装
- 備品収納物置の設置
- 備品の整備（イベント用テーブル、音響設備、臼杵等）

連絡先

寺前県民交流広場
TEL / FAX 0790-34-0001

地域づくりの
課題と目標

自然の宝庫の中で生き生きと、ふるさとに誇りを持ち、活性化を生み、地域住民のふれあいの場や、地域内外の県民の交流を図るため、平成19年度から平成23年度まで実施してきた県民交流広場事業の趣旨をそのまま受け継ぎ、多種多様な事業に取り組んでいます。会員は現在17名で、還暦を迎えた男性ばかりですが、今後は女性会員の加入を勧めていきたいと考えています。



【ブルーベリー狩り】

ブルーベリー狩り

活動の中心となっているブルーベリーの摘み取りや、出荷を目的として、7月下旬から9月上旬まで、毎日作業を行っています。摘み取りは、自治会内の女性十数人をお願いし、午前7時30分から2時間ほど作業をして、「道の駅」などに出荷しています。また、波賀小学校の児童を、8月上旬に招待したり、自治会にも一日無料開放しています。さらに、摘み取りを担当している女性が、ブルーベリーを活用したシフォンケーキやジャム・ジュース等の特産品の開発に力を注いでいます。

「ふれあいの館」を中心にしてふれあい喫茶やホタルの夕べを楽しむ

ブルーベリーの畑の中の小さな池で、源氏ボタルが多数発生するので、夕方「ふれあいの館」で地域住民が集まり、ふれあい喫茶とホタルの夕べを、同時開催しています。地域外の参加者も大歓迎。日が暮れてくると、良い時間帯を見計らって、会場を移動し、ホタルの乱舞を見学しています。



【ふれあい喫茶】



【かぶと虫の飼育】

かぶと虫を幼虫から育て成虫の誕生を楽しむ

かぶと虫ドームの中で、木材のチップを敷き詰め、チップの中で生まれた幼虫を見守り、成虫になった頃に、子どもたちがかぶと虫に触れることにより、自然の営みを学びます。26年度はさらに、古民家の萱を分けてもらい、萱を積み上げ幼虫を育てる予定です。

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業を活用したことで、活動拠点「ふれあい館」を新築し、活動の条件を整えていただいたことが、現在の「谷村おこしの会」の活動の原点となりました。「谷村おこしの会」は事業をさらに拡大し、行政の補助に頼らない運営を目指しており、25年度に山椒を100本、26年度4月に、収穫時期が少し早い品種のブルーベリー50本を植栽しました。

今後は、ブルーベリー、かぶと虫、炭、山椒の販売を進め、さらなる収益の拡大に努める予定です。また、周辺の休耕田を利用し、コスモスやひまわりを50アール植え付けし、景観形成をする予定です。

拠点施設



ふれあいの館

《主な整備内容：増築》

○身近に山・川・休耕田のある敷地（市有地）に、住民が集いふれあうための集会施設を新築（木造2階建、84㎡）

連絡先

谷村おこしの会（事務局 森本都規夫）

TEL / FAX 0790 - 75 - 3336

地域づくりの
課題と目標

上郡地区の高齢化率は、上郡町全体の26.9%を上回る33.7%に達しています。この現状に歯止めをかけ、少しでもよい方向に進めるためには、行政におんぶに抱っこではなく、地域に住む我々自身が現状をよく認識し、今出来ることから着手していかなければなりません。潤いのある、会話の弾む、魅力的なまちづくりを目指して、地域総出で取り組む事が、いま最も求められていると考えます。

魅力あるコミュニティーセンターとして



【菊森さんの家】

拠点施設の菊森さんの家では、ギャラリースペースや各部屋を有効利用した、さまざまな活動が行われています。パソコン教室、デジタルカメラ教室、健康体操、大人のピアノ教室、万葉集を楽しむ会、講演会、ライブコンサート、各種展示即売会、夏休み宿題教室、写真・絵画の展示、雛祭り・・・etc。

高齢者の方や、一人暮らしの方が多地域です。幼稚園児や、小学生も輪の中に入る工夫を重ね、世代を超えた交流の場を提供し、魅力的なまちづくりを目指していきたいと思っています。

健康維持を目的としたグラウンド運営

上郡町の中心市街地にある上郡町営住宅跡地を、グラウンドゴルフ等の出来る「鈴の宮健康広場」として整備し、活用しています。グラウンドゴルフは週2回、定期練習日を設けて、皆さん元気に活動されています。寒い日も、暑い日もボールを打つ音や、会話が弾む様子を目にすると、地域の皆がとても元気で生き生きとされていることが、十分に伝わってきます。何時までも続くことを願っています。



【鈴の宮健康広場】

これまでの
成果や
今後の予定

地域の一人暮らしや高齢者の方が、安心して生活できる様にと、平成24年8月にスタートした「命のバトン」活動は、平成26年3月の時点で100名(76世帯)の方が登録されています。自ら率先して取り組んだこの活動が、平成26年4月より上郡町全体で推進することになりました。

今後は、平成25年度にスタートした、歴史ある旧市街の価値を見直す「上郡町旧市街再発見フェア」を継続する予定です。また、平成26年3月末に竣工した、上郡リバーウォーキングコースを活用した「みんなで楽しく歩こう会」を中心に健康維持活動を推進する予定です。

拠点施設



菊森さんの家

《主な整備内容：増築》

- 和室を洋室化しギャラリー・展示スペースとして改修
- 情報発信のためIT工事を実施
- 鈴の宮健康広場として、町営住宅跡地をグラウンドに整備

連絡先

上郡校区まちづくり推進委員会(事務局 安則)
TEL / FAX 090-6608-6915

地域づくりの
課題と目標

西気地区は、豊岡市日高町の北西、アウトドアスポーツのメッカである神鍋高原に位置し、春・夏は学生のスポーツ合宿、テニス、パラグライダー、冬はスキー、スノーボード等、四季型の観光地で、地域住民の多くが観光事業に関わっています。人口は 900 人余り、約 290 世帯の地区で少子高齢化が進行し、各方面での衰退が懸念され、平成 24 年には西気小学校の閉校もあって、地域の疲弊をより強く感じています。そんな中、住民の活動拠点として健在な公民館で、新たな事業や既存の事業の拡充を図りながら、地域おこしに取り組んでいます。

(1) 西気地区ばんざ〜い！ 盆踊りで“飲みニケーション”

“西気ふれあいの集い”を実施しています。老若男女関わらず集い楽しいふれあいの場を提供しようと、毎年趣向を凝らしています。平成 24 年度からは長らく途絶えていた盆踊りを復活させ、地区内の 7 つの集落がそれぞれ屋台を構えるなどお祭り志向の行事となって、参加者からも大好評で地域交流の輪が広がっています。



【小学生もそうだる節を披露】



【地域の絆を深める“万歳”】



【創作和太鼓の演奏】

(2) 新たな風を！ 神鍋火山太鼓〜風恋〜

地域を盛り上げ、より神鍋をアピールしたい。そんな意気込みと誰もがいたって簡単に音を出すことができる和太鼓がマッチングして、神鍋火山太鼓〜風恋〜が誕生しました。

結成当時から地区内外の行事への出演依頼があり、活躍の場も年々増えてきています。また、但馬内のいくつかの太鼓グループとの交流もできるなど、立ち上げからの影響は多岐に及んでいます。平成 24 年度の西気小学校閉校式での演奏もその一つですが、今後の活動が大いに期待されています。

これまでの
成果や
今後の予定

備品整備や活動費の増加により事業を推進する上で大胆な活動が可能になったり、細かな対応が可能になったりしています。新しいことを始めると地域の反応も新鮮なものがあり、よい刺激につながっています。今後も地区住民と力を合わせて、健康的で安心安全、誰もが満足感を得られるような地域づくりをめざし、実現に向けて各方面と連携しながら取り組んでいきます。

拠点施設

西気地区
コミュニティセンター

《主な整備内容：備品購入》

- 和太鼓、パソコン教室関連備品購入
- 拠点整備関連備品の購入

連絡先

西気地区区長会

TEL / FAX 0796-45-1316 (西気地区公民館)

E-mail nisikichiku-cc@city.toyooka.lg.jp

地域づくりの 課題と目標

建屋校区は7行政区からなり、兵庫100山の須留ヶ峰、建屋川には特別天然記念物オオサンショウウオが生育するなど自然豊かな地域です。能座区には、国指定天然記念物「建屋のヒダリマキカヤ」があり、京都府第三代知事として琵琶湖疏水を完成させた「北垣国道」の生誕の地でもあります。春には伝統行事の奇祭「お走りまつり」があり、養父神社と斎神社の神輿が町なかを練り歩き、「ハットウ、ヨゴザルカ」という掛け声が山間に響きます。

一方、雇用の場がなく、若者の流出によって子どもの数が減少し、商店もなくなるなど、高齢化、過疎化が急速に進み、農地・里山の保全や伝統文化の継承、集落機能の衰退、消滅が懸念されています。このような中、安心安全な地域の環境を整え、地域の産業である農業後継者の不足を解決するための組織づくりが重要な課題です。今後は、集落を超えた大規模営農組織を進めるなど、地域住民とともに、住んでみたい、住んで良かったと思う建屋にするための事業・活動に取り組んでいきます。

(1) 活動拠点施設“立石ふれあい会館”が完成

平成23年7月、多目的室と実習室、車いす用トイレなどを備えた待望の拠点施設が完成しました。親しみのある名称にと公募の結果、“立石ふれあい会館”として、様々な事業・活動を展開しています。実習室では、地元ボランティアの協力を得て、男の料理教室、ケーキ作りやそば打ち体験など、子どもから高齢者まで幅広く集い、ふれあいの場として活用されています。また、ホールには、地域の伝統行事や情報などをパネル展示し、日常的に住民の方々が気軽に立ち寄ってもらえるようにしています。



【ケーキ作り】

(2) 多方面から参加者のある須留ヶ峰登山

広場事業を機に始めた兵庫100山“須留ヶ峰”への登山は、5年目を迎え、住民はもとより、都市住民との交流の場になっています。年々参加者は増えており、去年は京阪神方面などの遠方



【頂上での記念写真】

からも大勢の参加がありました。

眺望の素晴らしさは勿論のこと、下山後の餅耕地地区の皆さんによる温かい豚汁やコーヒーなどの“おもてなし”も、毎年、多くの方々に好評をいただいています。



(3) フルート教室

元・米国大学講師（フルート科）の上田賢一先生を迎え、初心者ばかりで始めたフルート教室です。今では数曲合奏ができるようになり、地域のイベントなどに出かけ、音楽を通じた交流の輪を広げています。

これまでの 成果や 今後の予定

念願の拠点施設建設を行い、事業の取り組みも5年目を迎えました。一昨年“地域づくり計画”をまとめ、課題や目標が明確になり、その中で担い手（後継者）の確保が最も大きな課題となっています。また、新たな事業を模索する動きもあり、指導者研修も企画しています。これからも住民と力を合わせて、豊かな自然の中で生き生きと暮らせる、安心安全な地域づくりを目指していきます。

拠点施設



建屋校区自治協議会会館

《主な整備内容：新築》

○地域所有地に木造平屋建（100㎡）を新築、多目的室、実習室を整備

連絡先

建屋校区自治協議会

TEL/FAX 0796-666-0272

E-mail takinoya-ko@fureai-net.tv

地域づくりの
課題と目標

篠山と京都を結ぶ街道沿いにあった福住地区は、江戸時代から宿場町として発展してきましたが、近年では少子高齢化の進行により地区内の人口も減少傾向にあります。地区では、伝統的な文化や町並みを生かしたまちづくりに取り組んでおり、平成 24 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に町並みの一部が選定されたことから、歴史ある地域資源を活用しながら、「住んでよかった」、「住んでみたい」と思える、将来にわたって誇れるまちづくりに向けた活動を推進しています。

(1) 歴史的建造物の活用



【福住わだ家】

かつて産婆さんの家として地域で親しまれていた古民家を改装し「さんば家ひぐち」と名付け、福住地区を訪れる人との交流の場、お年寄りや子育て中のお母さんが集う場として整備し活用しています。

当地区では、古民家を改装したレストランや民宿など、歴史的建造物の活用が進んでいますが、都会から田舎暮らしを希望する方に、福住地区を知ってもらいスムーズな移住が果たせるよう、元郵便局の建物を改装した田舎暮らしのお試し住宅「福住わだ家」を運営するなど、歴史的な町並みを活かしたまちづくりを進めています。

(2) 若者のアイデアを活かしたイベントの開催

福住地区の若者たちで構成する「2030プロジェクトチーム」の企画とアイデアもまちづくりに活かされています。福住の魅力を発信する冬のイベント「雪花火」で、新たにフライングキャンドル(ろうそくの熱で上昇する熱気球)を上げる取り組みもその一つで、冬の夜空に広がる幻想的な風景を一目見ようと、地区外からも参加者が集まっています。

また、このイベントには神戸大学などの学生も参加しており、ほかにも大学との連携事業が地区内で行われています。



【雪花火 フライングキャンドル】

これまでの
成果や
今後の予定

県民広場事業により住民が自発的に地域の課題に取り組むことのできる施設とオール福住体制の組織ができました。

地域内では若い世代は仕事に出るため、平日の昼間は高齢者の占める割合が高くなることから、防犯・防災面で不安な面があります。このような地域の課題を若者達が認識し、10 年先、20 年先の福住地区を見据え「創造する福住」を目指し活動に取り組んでいます。

拠点施設



福住古民家「さんば家ひぐち」

《主な整備内容：改修》

- 和室・土間・囲炉裏端等を交流スペースとして改修
- ふれあいギャラリーを整備
- 備品の整備（パソコン、プリンター、調理器具など）

連絡先

福住地区まちづくり協議会
TEL / FAX 079-557-0861

地域づくりの
課題と目標

丹波市のほぼ中心に位置し商業のまちとして栄え、市の公共施設も集積しています。300年以上の伝統を誇る「愛宕祭」は、今も毎年数万人の観客で賑わいます。しかし、近年、少子高齢化、商店街の空洞化、核家族化が進みコミュニティも希薄化しつつある現状です。

そこで、平成19年からテーマを「知」と設定し「人・思い・地域」を知る事業を展開。平成23年度からは「繋」へと進め、今まで「知」で知った事や住民から寄せられる思いを繋ぎ、先人からの伝統を繋ぎ、地域住民が繋がって「地域は家族」をキャッチフレーズに「安心安全で笑顔があふれ将来も住み続けたいまち中央」をめざしています。

(1) にぎわいの復活 「甲賀の里 軽トラ市」



【甲賀の里◆軽トラ市】

丹波市外からの訪問者に特色ある販売方法で特産物などを紹介することにより町を知っていただき、にぎわいのある町・人々が集う町づくりをしようと「甲賀の里 軽トラ市」を開催しています。交流により、理解し合い個々の良さを発揮して住民も商売人も参加者も共に楽しめる活動をめざしています。地域・他地域を問わず人々の参加によって創り上げるみんなの参加型まちづくりを目指し年2回開催しています。

(2) ふれあい田ねん

「親父の腕まくりの会」という農業者の有志が「自然体験が少なくなってきた子どもたちに、米作りを通して、人との関わり、米作りの苦労や収穫の喜びを感じさせ成長を応援しよう。」と田んぼでふれあう事業を始めました。ほとんどの子どもたちが「田んぼに裸足で入り田植えをする」「稲刈り鎌を使う」「作ったもち米を軽トラ市で販売する」など初めての体験となります。自然の中で地域の人との繋がり・食物への感謝・農業や販売の苦労を知り、心豊かに育ててほしいと開催しています。



【田植え】

これまでの
成果や
今後の予定

地域づくりの活動拠点施設が整備できたことにより、地域住民が一堂に会して活動する機会や交流が増えました。住民の意見もよく届くようになり意識の高揚を感じます。また、地域の情報について集約・調整・管理・協議・発信でき機能的になりました。今後は、現在実施している活動についてしっかり継続しつつ住民のニーズにあった様々な新事業を企画・展開し、住民が主役のコミュニティづくりを推進します。

拠点施設



ひかみ成松交流館

《主な整備内容：改修》

- 多目的利用への対応として、会議室の床を改修。
- 多目的トイレ、スロープや手摺設置、視覚障害者誘導用ブロックの設置など施設のバリアフリー化。

連絡先

中央地区自治振興会
TEL / FAX 0795-82-9800

地域づくりの 課題と目標

大野地区の人口は、昭和4年の3,400人から平成19年には6,839人と倍増し、20年度までは微増を続けている中で、従来の住民の方々と新興住宅地の方々との融和、交流が課題でした。当地区は歴史的にも特筆すべき存在感のある物はありませんが、「大野においてよ、大野はいいよ」という住民の広い心と活動があり、拠点とする「公民館をもっと入りやすく利用しやすい公民館に改修し、活動面での仕掛けを多くすること」を目標としました。



(新しい活動) 囲碁教室

囲碁教室を毎週火曜日の13:30より有志の皆さんで開始し、現在では毎回25人以上が集まり、会場が狭いくらい盛況で、たまには他地区の皆さんも参加し、交流を図っています。

【囲碁教室】

(新しいイベント) ウォークラリー in 大野

今回で2年目となりましたが、大野地区の由緒ある名所、旧跡を巡って、その謂れを知り、自分たちのふるさとを再認識し、新しい大野を見つけ後世に伝え引き継ぐ役割も担い、子どもたち25人を含む80人以上が参加し、楽しく元気に1日を過ごしました。

特に大野小学校の児童、先生方にも積極的に協力していただき、年間行事として定着しつつあります。



【ウォークラリー】



大野菜の花まつり

大野地区の伝統イベントで、今年で7回目となります。公民館とその周辺の田んぼの持ち主に協力いただき、菜の花の真っ盛りの時期に開催しています。大野地区の各種団体が一体となって運営しており、大野連合町内会が主催、県民交流広場委員会が後援団体として協力しています。

多世代の方々約1,000人に参加いただき、楽しい踊りや趣味作品の展示、また菜の花の天ぷらやおにぎり、おいしく楽しく交流しています。



【菜の花まつり】

これまでの成果や 今後の予定

県民交流の輪が広がり、今では大野連合町内会の中の1団体として定着しました。今後は、これまでのすべての活動は継続できませんが、要望の多い囲碁教室やウォークラリー等の活動を継続していきます。

拠点施設



大野公民館

《主な整備内容：改修》

- 自動ドア、車いす用スロープ等を設置、事務所を入り口近くに移転
- 備品の整備（コピー機、PCの購入）

連絡先

大野地区県民交流広場推進委員会
TEL / FAX 0799-24-3602

地域づくりの
課題と目標

平成 27 年度に南あわじ市の新庁舎が完成し、旧緑町の中心施設である現緑庁舎が廃止され地域の疲弊に繋がる懸念と新興住宅の住民の地域活動への不参加傾向など、地域自治の弱体化がますます進行すると思われる。この流れを食い止め、地域の賑わいと活性化を取り戻すため、世代間交流の促進、いつでも誰でも集まれる場所の確保、次世代を担う子どもたちと共に地域の現状や課題を知る学習などが不可欠です。

そのために、地域住民が自主性を持ち一丸となって『いつまでも住み続けたいまち』を目指した活動を積極的に展開・継続していきます。

広田梅林ふれあい公園『梅林まつり』賑わいと周辺美化



【広田梅林ふれあいコーナー】

広田地域の唯一の観光資源である「広田梅林ふれあい公園」を活かした活動として、近接のため池を整地し駐車場も兼ねて「広田梅林まつり」の期間（春 1 ヶ月間）に『広田ふれあいコーナー』を開設し、コーヒー、ぜんざいなどを販売して地域住民や観光客に楽しんでもらっています。

また、子どもとのふれあいの場とし『環境学習とバーベキュー大会』なども新規に企画し、年間を通して住民が気軽に利用できる触れ合い憩いの場として活用を図っています。

広田ふれあいコンサート

広田まちづくり協議会として主催する初めての行事です。

さまざまなまちづくり活動を推進する 4 つのチームの内一つ、「チャイルドチーム」が主体で、保育園、小・中学校吹奏楽部、まちな音楽愛好家などが一堂に会して「ふれあいと笑顔のまちな音楽会」を企画実行しました。

まさに、幼児からお年寄りまであらゆる世代が癒やされ楽しい交流の場として好評で成果がありました。

また、若い人たちのまちづくりへの積極的な参加意欲の起爆剤としても期待しています。



【広田ふれあいコンサート】

これまでの
成果や
今後の予定

・地域住民が自由に利用できる交流拠点を明確にし、個々の団体の独自活動を本協議会を通じ一体的で連携の取れた活動を展開し、希薄化傾向にあった地域コミュニティの活性化と賑わいづくりに繋がりました。

・太陽光発電など自然エネルギーや環境教育を通じ、特に子どもの参加を積極的に進め、まちづくり活動を定着化し継続性を図るため、自主運営ができるよう次世代リーダーの育成、交流広場事業を多くの方々に参加・協力を得るための情報発信の内容・方法研究が最大の課題です。

拠点施設



南あわじ市緑市民センター

《主な整備・備品内容》

- 緑市民センター駐車場に『太陽光発電パネル』設置 & 『広田ふれあい公園』広田梅林周囲整備
- 備品の整備 環境学習教材、キッズコーナー遊具、物置

連絡先

広田まちづくり協議会

TEL / FAX : 0799-44-3008/3038